

2014年8月期 決算サマリー

当社グループは2014年8月期第四半期より、従来の日本基準（以下「JGAAP」）に替えて、国際会計基準（以下「IFRS」）を適用しており、前年度の数値もIFRSベースに組み替えて比較分析を行っております。

決算短信ではIFRSのみにて開示を行っておりますが、従来からの継続性および、すでに発表済みの予想数値との比較をしやすくするために、JGAAPを中心に説明しております。

連結業績<JGAAP>

(億円)

	2013年8月期	2014年8月期		
	通期実績 (2012/9~2013/8)	直近予想(7/11) (2013/9~2014/8)	通期実績 (2013/9~2014/8)	
			前期比	
売上高	11,430	13,700	13,829	+21.0%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%	6,865 50.1%	7,018 50.8%	+24.4% +1.5p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%	5,410 39.5%	5,531 40.0%	+28.3% +2.3p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%	1,455 10.6%	1,486 10.7%	+11.8% ▲0.9p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%	1,495 10.9%	1,568 11.3%	+5.3% ▲1.7p
当期純利益 (売上比)	903 7.9%	780 5.7%	781 5.6%	▲13.6% ▲2.3p

連結業績<IFRS>

(億円)

	2013年8月期	2014年8月期		2015年8月期	
	通期実績 (2012/9~2013/8)	通期実績 (2013/9~2014/8)	前期比	通期予想 (2014/9~2015/8)	前期比
売上収益	11,429	13,829	+21.0%	16,000	+15.7%
売上総利益 (売上比)	5,651 49.4%	6,997 50.6%	+23.8% +1.2p	-	-
販管費 (売上比)	4,261 37.3%	5,491 39.7%	+28.9% +2.4p	-	-
営業利益 (売上比)	1,341 11.7%	1,304 9.4%	▲2.8% ▲2.3p	1,800 11.3%	+38.0% +1.9p
当期利益 (売上比)	1,074 9.4%	793 5.7%	▲26.2% ▲3.7p	1,080 6.8%	+36.1% +1.1p
親会社の所有者へ 帰属する当期利益 (売上比)	1,045 9.2%	745 5.4%	▲28.7% ▲3.9p	1,000 6.3%	+34.1% +0.9p

グループ事業別業績<JGAAP>

(億円)

		2013年8月期	2014年8月期		
		通期実績 (2012/9~2013/8)	直近予想(7/11) (2013/9~2014/8)	通期実績 (2013/9~2014/8)	
				前期比	
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,150	7,156	+4.7%
	営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,000 14.0%	1,106 15.5%	+14.2% +1.3p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	4,000	4,136	+64.7%
	営業利益 (売上比)	183 7.3%	350 8.8%	347 8.4%	+89.5% +1.1p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,530	2,512	+21.8%
	営業利益 (売上比)	174 8.5%	210 8.3%	163 6.5%	▲6.6% ▲2.0p

グループ事業別業績<IFRS>

(億円)

		2013年8月期	2014年8月期	
		通期実績 (2012/9~2013/8)	通期実績 (2013/9~2014/8)	前期比
国内ユニクロ事業	売上収益	6,833	7,156	+4.7%
	営業利益 (売上比)	952 13.9%	1,063 14.9%	+11.6% +1.0p
海外ユニクロ事業	売上収益	2,511	4,136	+64.7%
	営業利益 (売上比)	124 4.9%	329 8.0%	+165.1% +3.1p
グローバルブランド事業	売上収益	2,062	2,512	+21.8%
	営業利益 (売上比)	166 8.1%	-41 -	- -

【決算ハイライト】2014年8月期は増収増益

■2014年8月期の連結業績実績：＜JGAAP＞

売上高は1兆3,829億円、前期比21.0%増、営業利益は1,486億円、同11.8%増と増収増益。国内ユニクロ事業では既存店売上高の増収と粗利益率改善により増収増益、また、海外ユニクロ事業では、大量出店により大幅な増収増益を達成。一方でグローバルブランド事業は、GU事業、セオリー事業が減益になるなど苦戦を強いられたことで増収減益。営業外収支では為替差益が前年から73億円減少、経常利益は1,568億円、同5.3%増。また、J Brandの減損損失などにより、当期純利益は13.6%の減益。年間配当金は、期末配当金150円を含み、300円の見込み。

■国内ユニクロ事業：＜JGAAP＞粗利益率の改善で、増収増益

年間を通してコア商品中心に売上が好調に推移、既存店売上高は前期比1.9%増。好調な売上と粗利益率改善により、営業利益は前年比14.2%増。

■海外ユニクロ事業：＜JGAAP＞増収増益、グレーターチャイナ、韓国、欧州の好調が続く

計画通りの大幅な増収増益を達成。特に、グレーターチャイナ（中国・香港・台湾）、韓国、欧州で好調な既存店売上高を達成したことから、計画を上回る増収増益。グレーターチャイナは売上高2,081億円（同66.5%増）、営業利益248億円（同83.0%増）のビジネスへ拡大。

■グローバルブランド事業：＜JGAAP＞増収減益、J Brandは減損損失を計上

営業利益は計画を下回り減益。ジーユー事業の売上高は1,075億円（同28.4%増）、営業利益は68億円（同10.8%減）と減益。J Brand事業は赤字継続のため、減損損失を計上。

■連結営業利益におけるJGAAPとIFRSの差異

JGAAPの営業利益1,486億円に対して、IFRSの営業利益は1,304億円と182億円の差異は、JGAAPでは特別損失として計上されているJ Brandの減損損失127億円と店舗減損46億円が、IFRSでは営業利益にマイナス計上されていること、また、IFRSではJGAAPではすでに過年度までに償却が済んでいたJ Brandののれん償却分および無形資産66億円が追加の減損損失として、営業利益にマイナス計上されているため。一方で、JGAAPでは営業外収支として計上されている為替差益の一部39億円と、のれん償却費59億円の計上が無くなる点が、IFRSでは営業利益にプラスに計上。この結果、JGAAPの営業利益は前年比で増益だったものの、IFRSでは減益。

■2015年8月期の連結業績予想：＜IFRS＞

通期の売上高は1兆6,000億円、前期比15.7%増、営業利益は1,800億円、同38.0%増、税引前利益は1,800億円、同32.9%増、当期利益は1,080億円、同36.1%増、EPSは981.18円を見込む。1株当たり年間配当金は、中間配当金160円を含み320円を予想。

業績概要

■国内ユニクロ事業：＜JGAAP＞増収増益

国内ユニクロ事業は、連結売上高の51.7%、連結営業利益の74.4%を占めている主力部門です。2014年8月期の売上高は7,156億円（同4.7%増）、営業利益は1,106億円（同14.2%増）と増収増益となりました。増収となったのは、既存店売上高が1.9%増と好調だったこと、スクラップ&ビルドによる店舗大型化で1店舗当たりの売上高が増加したことによります。年間を通して、ヒートテック、ニット、ジーンズ、ウルトラライトダウン、スウェット、エアリズムなどのコア商品の販売が好調だったことに加え、スカート、ワンピース、ブラウスといった新商品の販売も順調に推移いたしました。好調な売上トレンドを反映し、粗利益率は49.5%と、前期比3.0ポイント改善いたしました。一方で、売上高経費比率は1.7ポイント上昇しておりますが、これは主に、店舗人件費を中心に人件費比率が上昇したこと、物流コストが上昇した影響によります。2014年8月期末における店舗数（フランチャイズ店含む）は852店舗と前期末比1店舗減となっております。

■海外ユニクロ事業：＜JGAAP＞増収増益、グレーターチャイナ、韓国、欧州の好調が続く

海外ユニクロ事業の売上高は4,136億円(同64.7%増)、営業利益は347億円(同89.5%増)と、計画通り大幅な増収増益となりました。特にグレーターチャイナ(中国・香港・台湾)、韓国、欧州では、好調な既存店売上高の伸びが続き、計画を上回る増収増益を達成しました。グレーターチャイナの売上高は2,081億円(同66.5%増)、営業利益は248億円(同83.0%増)と大幅な増収増益となっております。8月期末のグレーターチャイナの店舗数は374店舗でした。

韓国でも既存店売上高の増収が続き、計画を上回る大幅な増収増益を達成、8月末の店舗数は133店舗となっております。シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアといった東南アジア・オセアニア地区では、増収増益を達成いたしましたが、夏物商品の販売が若干弱かったことから、計画を若干下回る業績でした。2014年4月には新規国としてオーストラリア、メルボルンに出店を果たし、計画以上の売上を達成しております。東南アジア・オセアニア地区では、通期で41店舗を出店し、8月期末の店舗数は80店舗まで拡大しております。

米国では、上期の業績は好調に推移したものの、下期は冷夏の影響を受けたこと、新店の前倒しによる経費増により、通期の営業赤字幅はほぼ前年並みに留まる結果となりました。通期では、18店舗を出店し、8月期末の店舗数は25店舗となりました。

英国、フランス、ロシア、ドイツといった欧州では、計画を上回る増収増益を達成しました。4月にはドイツ1号店となるベルリಂಗローバル旗艦店を出店し、欧州におけるユニクロブランドの知名度の向上に貢献しております。海外ユニクロ事業全体の8月末の店舗数は、前年同期末比187店舗増の633店舗まで拡大いたしました。

■グローバルブランド事業：＜JGAAP＞増収減益、J Brandは減損損失を計上

グローバルブランド事業の売上高は2,512億円(同21.8%増)、営業利益は163億円(同6.6%減)と増収減益の結果となりました。ジュー事業の売上高は1,075億円、前期比28.4%の増収となりましたが、営業利益は68億円、同10.8%の減益となりました。上期の業績は好調で増収増益でしたが、春先から販売が苦戦し、在庫処分による値引き販売が増加したことが減益の要因です。またセオリー事業も、若干の減益となっております。コントワー・デ・コトニエ事業は、計画を上回り、増収増益を達成、プリンセス・タム・タム事業は、冷夏により水着販売が苦戦し、減益でした。なお、J Brand 事業は赤字が継続したため、期末に減損損失を計上しております。

■連結営業利益における JGAAP と IFRS の差異

JGAAP の営業利益1,486億円に対して、IFRS の営業利益は1,304億円と182億円の差異が生じております。これは、JGAAP では特別損失として計上されているJ Brand の減損損失127億円と、店舗減損46億円が、IFRS では営業利益にマイナス計上されていること。また、IFRS ではJGAAP ではすでに過年度までに償却が済んでいたJ Brand ののれん償却分および無形資産66億円が追加減損損失として、営業利益にマイナス計上されていることによります。一方で、JGAAP では営業外収支として計上されている為替差益の一部39億円と、のれん償却費59億円の計上がなくなった点が、IFRS では営業利益にプラスとなっております。この結果、JGAAP の営業利益は前年比で増益だったものの、IFRS では減益となっております。

■2015年8月期の業績予想：＜IFRS＞

2015年8月期の連結業績予想は、売上収益1兆6,000億円、前期比15.7%増、営業利益1,800億円、同38.0%増、税引前利益1,800億円、同32.9%増、当期利益1,080億円、同36.1%増、親会社の所有者に帰属する当期利益1,000億円、同34.1%増、基本的1株当たり当期利益は981.18円を見込んでおります。

また、各セグメントでは、いずれも増収増益を見込んでおります。

2015年8月期末の店舗数は国内ユニクロ事業で844店舗(フランチャイズ店含む)、前期末比8店舗減、海外ユニクロ事業で818店舗、同185店舗増、グローバルブランド事業で1,353店舗、同85店舗増、合計3,015店舗、同262店舗増を予想しております。

なお、通期の1株当たり年間配当金は、中間配当金160円を含み320円を予想しております。